# 備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成25年度事業）

## 事業の概要

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業開始年度 | | | 平成17年度 | 根拠法令・例規等 | | 学校給食法、同施行令 |
| 総合計画 | 大項目 | 基本構想 | 01 重点政策「教育」 | 問合先 | 担当課（室） | 教育総務課 |
| | 中項目 | 基本計画 | 01 将来を担う人材が育つまち | | 職・氏名 | 係長　森　優 |
| | 小項目 | 施策 | 03 小・中学校教育の充実 | | 電話 | 0869-64-1802 |
| 事務事業名 | | | 20 給食施設整備事業 | このシート作成に要した時間 | | 0.5 時間 |

Plan

## 事業の目的

| | |
|---|---|
| 対象（誰・何に対して） | 市立学校給食調理場 |
| 目的（何のために） | 安全な学校給食を提供できる衛生的で清潔、快適な共同調理場、単独調理場の施設設備・備品の整備 |
| 事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか） | 安全で安心できる清潔で衛生的、効率的な給食施設設備・備品の整備 |

Do

## 事業の実績

目的を達成するため実施した事業

| 細事業名 | 事業の説明 | 優先度 |
|---|---|---|
| 給食施設整備事業 | 学校給食施設の改修、設備機器の更新などの整備事業 | ◎ |

| 事業費等 | | | 単位 | 平成23年度実績 | 平成24年度実績 | 平成25年度実績 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額 | 事業費 | 直接事業費 | 千円 | 4,936 | 3,521 | 2,356 |
| | | 必要人員 人件費 | | 0.00人 0 | 0.01人 79 | 0.02人 97 |
| | | 事業費計 | | 4,936 | 3,600 | 2,453 |
| | 財源 | 国県支出金 | 千円 | | | |
| | | 受益者負担 | | | | |
| | | 繰入金 | | | | |
| | | 市債 | | | | |
| | | その他（　） | | | | |
| | | 一般財源 | | 4,936 | 3,600 | 2,453 |
| | 受益者負担比率 | | % | — | — | — |

| 結果指標名 | | 単位 | 平成23年度実績 | 平成24年度実績 | 平成25年度実績 |
|---|---|---|---|---|---|
| 結果指標 | 給食調理施設整備事業費用 | 説明 | 総事業費／給食調理場数 | | |
| | 結果指標量 | 箇所 | 5 | 5 | 5 |
| | 対前年比 | % | — | 100.0% | 100.0% |
| | 活動コスト | 円 | 4,936,000 | 3,600,000 | 2,453,000 |
| | 単位当たりコスト | | 987,200 | 720,000 | 490,600 |

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

## 事業の成果

| 成果指標名 | 年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度目標値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 調理場一施設当たりの整備事業費 | 目標値（A） | — | — | — | — |
| | 実績値（B） | 987,200 | 720,000 | 490,600 | 到達目標値 |
| | 達成率（B/A） | #VALUE! | #VALUE! | #VALUE! | — |

成果指標設定の考え方・式や説明

調理場の整備事業について、一施設当たりの金額を指標とする。
調理場整備事業費（設備機器更新を含む）÷調理場数

Check

## 事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

### 妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：B

### 効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- □ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：B

### 有効性の評価

目的達成度市民参画度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：B

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

## 進行年度（H26年度）の改革改善内容

| 状況 | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 | 休止 | 廃止・完了 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ○ | | | | | |

説明：経年劣化の調理場施設設備・機器の改善を行う。

## 総合評価

老朽度を勘案しながら、施設設備・機器の計画的な整備を行う必要がある。

総合評価（A高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：B

Action

## 平成27年度の方向性 ・ 取組目標

| 方向性 | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 | 休止 | 廃止・完了 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ○ | | | | | |

取組目標：
経年劣化の調理場施設設備・機器の改善を行う。
また、調理場統廃合に係る整備は必要に応じて検討していく。